

☆伊賀市立城東中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

城東中学校区は、単親家庭や外国につながる子ども等、教育的に不利な環境のもとにある子ども達が多く在籍しています。その中で、低学力傾向、生活経験の乏しさ、将来の展望を持つことができない子どもの姿がみられます。また、経済的に不利な立場におかれていることが子ども達の学力格差にもつながっている現状があります。

本中学校区では、各校・園（所）が地域と連携する中で「学力保障」「人権・同和教育」「キャリア教育」の確立をめざした取組を進めてきました。それらをベースに地域連携の仕組みとして「子ども支援ネットワーク」（以下「ネットワーク」という。）を構築し、子ども達の自尊感情や学習意欲の向上を図りたいと考え、小学校区の枠を越え中学校区として学校・家庭・地域が連携して子どもの実態を知ったり、子どもに支援したりする機会を多く設定しました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 学習教室・体験教室

子ども達の現状や課題を受け、長期休業中、子ども達に規則正しい生活習慣と学習習慣を継続させ、確かな学力を身につけさせたいと考え、市民館で学習会を実施しました。送迎の保護者が「今日は時間があるから子ども達の様子見ていこうかな。」と言って参加し、「がんばってるなあ。」「上手に書けてるよ。」と声をかけ支援する姿もみられました。



切り絵体験

また、子ども達の生活経験を豊かにするために、体験学習を計画し、魚とりの仕掛け作りや、シャワーケライミング等を行いました。他には、地域で切り絵に取り組んでいる方が講師となり「切り絵体験」を行ったり、竹を切り出す等の土台作りから地域住民に教わり「流しそうめん体験」を行ったりしました。

(2) 地域と共に人権について学ぶ

① 地域住民と行った人権のつどい 影絵人権イベント鑑賞会「きみはほんとうにステキだね」

地域住民自治協議会が中心となり、地域で人権について学び合うことを目的に、鑑賞会を開催しました。「大人と子どもの共同参画が良かった。」という感想もあり、子どもと保護者・地域住民が、自分のことを振り返り自尊感情を育みながら、お互いが大切な存在だということを考える機会となりました。

② 地域の文化祭

交流を通して人権感覚を高めようと、毎年、地域の文化祭が開催されています。今年は小学校区を越えた子ども達や多くの方の参加もあり、400名を超える来場者がありました。子ども達の劇や地域の高校生の出店等もあり、地域住民と保護者が子ども達と共に楽しいひと時を過ごすことができました。



地域の文化祭

(3) ネットワークづくり研修会 全体研修会「学力を育てる」

大阪大学から志水宏吉さんを招き、学力格差の実態から、教育的に不利な環境のもとにある子ども達の基礎学力の水準を下支えしている学校、全ての子ども達をエンパワーする学校が備えるべき要素について話を聴きました。「つながり」と「習慣」をつくるのが子ども達を変え、学力の向上につながっていくことを、地域のみんなで確かめることができました。

◆実践を振り返って

学習・生活満足度の調査結果で、自尊感情や学習意欲の向上が見られたのは、本事業で取り組んだ様々な活動が、子どもの気持ちの安定につながったためであると考えています。また、地域住民が子ども達に関わる機会を多くもったことで、つながりが強くなり、子ども達は地域に見守られ励まされ認められることに喜びを感じ、あきらめずに取り組む気持ちや学習意欲の高まりがみられました。

全体として、ネットワークの取組の成果があったものの、自尊感情や学習意欲が十分に高められていない児童生徒もいます。今後も、城東中学校区子ども支援ネットワーク推進協議会を中心に学校・地域・家庭がさらに協働関係を強いものにし、子どもの課題をしっかりと共有しながら取組の充実を図っていきたいと考えています。